レッスン：SPA/NO.5

テーマ：メタトロニオス/五芒星

SPA05.DOC/SPA PYRJ6/KE5

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私たちは常に主、絶対、神の聖性によって抱かれています。

過去において私たちは創造界への人間の下降について多く述べ、人間がこれらの世界に魂のセルフ・エピグノシスとして現れた最初の瞬間から、五つのアークエンジェルが人間に付き添っていると話しました。

これら五つのアークエンジェルのなかの四つは異なった四つのアークエンジェルのオーダーに属しており、少なくともそれら四つのオーダーは実存の世界のなかでも人間に知られています。もう一つのアークエンジェルはいかなるオーダーにも属しておらず、このアークエンジェルは守護天使(Guardian Angel)と呼ばれています。

他の四つのアークエンジェルはそれぞれのオーダーに属しているということは、彼らは人間に付き添うためにそれらのオーダーから来ているということでしょうか？そうではありません、こられ四つのアークエンジェルのみならず、もう一つのアークエンジェルも直接に絶対存在から来ています。

ですから、私たちにはミカエルがいますが、それは複数のミカエル（＊つまりミカエルのオーダー）から来たのではありません。ガブリエル、ラファエル、ウリエルについても同じです。五つのアークエンジェルが表現の世界、創造界のなかで人間に付き添っています。

その目的は何でしょうか？「生それ自体の世界」、「存在の世界」においてその目的を見出すことができるでしょうか？できません、「生の世界」、「存在の世界」における生それ自体としての人間にはアークエンジェルが付き添うべき目的がありません。なぜなら、「生」としての人間は神の本質の特質を完全に表現しており、「父」の完全なる似姿だからです。（アークエンジェルが伴う）目的は、実存の世界のなかにおける生の現象としての「生」のためです。

**守護天使はセルフ・エピグノシスという点に関しては、他の四つのアークエンジェルのセルフ・エピグノシスと比べると、人間の「魂のセルフ・エピグノシス」に非常に近いものです。しかし、人間のセルフ・エピグノシスと比べると大きな違いがあります。**

ですから、実存の諸世界において守護天使が現在のパーソナリティーに付き添っていますが、その目的は何でしょうか？そのパーソナリティーの「魂のセルフ・エピグノシス」を援助するため、（＊そのパーソナリティーが）啓発に魅力を感じるようになるため、そして、原因・結果の法則によって許されている限りにおいて、苦しみもたらすような出来事を回避するべく現在のパーソナリティーを助けるためです。これが守護天使の役割です。守護天使は実際にはエンジェル（天使）ではなくアークエンジェル（大天使）です。というのも、エンジェルはアークエンジェルのエレメンタルなのですが、守護天使はエレメンタルではないからです。

他の四つのアークエンジェルの役割は何でしょうか？彼らは実存の諸世界において現在のパーソナリティーにどのように奉仕しているのでしょうか？以前のレッスンで述べたように、人間は無知のなかにある間は四面ピラミッドの下にある自分の墓のなかにいます。そして、現在のパーソナリティーのこの墓の中で、真理の探究者としての私たちは何らかのエクササイズを行います。

まず、イメージ（視覚化）によって、自分の墓を創造します。というのも、私たちはこの墓を経験的に知っていないからです。ですから、それを創造します。天井と床のある四つの壁に囲まれた限界のある場所を創造します；私たちの努力とは、これらの限界、境界から自分を解放することです。

さらに、小さな四面ピラミッドを創造し、そのなかで別のエクササイズをも行います。これもまた自分で創造しますが、本当の大きな四面ピラミッドではありません。本当の大きな四面ピラミッドは、現在のパーソナリティーがその小さな墓という限界、境界から自らを解放した後で見出すものです。

Page 2

ですから、

真理の探究者はまず第一に、感覚エーテル、運動エーテル、刻印エーテルというエーテルの特質をマスターし、

この四面ピラミッドおよび現在のパーソナリティーの墓を創造する必要があります。

四面ピラミッドの各サイドにフォーカスするとき、実際には何をしようとしているのでしょうか？それは四つのエレメンタルをマスターすることであり、そうすることによって私たちは自分の体、特に肉体と親しくなるのです。ミカエルのサイド（右側）にフォーカスするとき、実際に私たちはミカエルに同調しようとしているのです。他のサイドに関しても同じです。

他のすべてのサイド？それでは、自分の正面のサイド、つまり鏡としてのサイドについてはどうでしょうか？以前述べたように、このサイドはウリエルを示しており、このサイドにフォーカスすると、ウリエルに同調することになります。

もし「私たちが同調する最後のアークエンジェルはどれか？」と質問されたなら、あなたはどれだと思いますか？ミカエル、ウリエル、ガブリエル、ラファエル、どれでしょうか？

現在のパーソナリティーに伴う四つのアークエンジェルの役割を見てみましょう。実際、それらのアークエンジェルはオーダーに属する無数のアークエンジェルのなかの一つなのではありません。私たちが同調しようとするのはそのミカエル、そのガブリエル、そのラファエル、そのウリエルです。これらのアークエンジェルのセルフ・エピグノシスは、それらのオーダーのセルフ・エピグノシスと同じではありません。彼らは異なったセルフ・エピグノシス（Self-Epignosis）を有しており、彼ら（＊人間に付き添っているアークエンジェルたち）の役割は、自分たちが属するオーダーに現在のパーソナリティーがそれ自身を同調させるのを助けることです。それぞれのアークエンジェルが宇宙のなかで、そして現在のパーソナリティーの諸体のなかで行っている働きを、現在のパーソナリティーがよく知るようになるのはそれらのおかげです。

それでもまだ、「最後に同調するのはどのアークエンジェルなのか？」という質問が残っています。最後のものはウリエルです。なぜなら、ウリエルは他の全てのアークエンジェルたちの仕事のコーディネーターだからです。

そして、もし私たちがウリエルと同調するとしたら、それは私たちの体、特に肉体の築きと維持に向けて聖霊と共同して働くことを意味します。

他のアークエンジェルが行っていることを知ることができるようになります。そうです、最初から私たちに付き添っている四つのアークエンジェルと同調するためのエクササイズを、自分たちの墓で、特に私たちがこれから創造しようとする墓のなかで、します。

さて、これまで話したように、私たちはこれらの限界、境界から自分自身を解放するために努力します。しかし、もしそれを行ったら、私たちはどこに行くのでしょうか？この墓、つまり私たちが現在いるこの部屋は四面ピラミッドの下、地面の深い所にあることを知っています。もしこの部屋から出ようとするなら、私たちはどこにいるのでしょうか？地面の中、そうではありませんか？この部屋と地表は離れており、その間は全部土です。もし困難に直面するための適切なツールを持っていないと、純粋な土のなかで私たちは危険に遭遇することになります；それらの無知の限界、境界から自分自身を解放しようとすべきではありません。ドアーを開け、この私たちの場所から去ろうとするよりは無知のなかに留まるほうがましです。

この部屋、つまり私たちが無知の部屋と呼んでいる部屋にいる間に、現在のパーソナリティーがすべきことのひとつはシールド、乗り物を築くことです。それは地面のなかのこのジャングルで、現在のパーソナリティーがあらゆる獣に取り囲まれたときに役立ちます；その乗り物とは五芒星以外の何ものでもありません。そうです、現在のパーソナリティーは自分自身を防御するための五芒星の築き方を学ぶ必要があります。しかし、勿論この五芒星は創造すべきものであり、人間の気づきのレベルのゆえに現在はありません。

それはサイコノエティカルな成長の結果としてできるのではなく、現在のパーソナリティーが創造するものです。それによって、現在のパーソナリティーが成長の結果として、この五芒星が存在するような気づきのレベルを最終的に表現する助けとなるのです。

それはいつでしょうか？それは現在のパーソナリティーが意識的のみならず超意識的にも五つの超感覚を完全に現すときです。

さて、地面のなかであらゆる獣と直面できるようにこの五芒星を築かなければならないと言うとき、それは獣がこの無知の部屋に入ってこないよう、無知のドアーを開いてはならない、と言うのと同じでしょうか？まさに同じことです。私たちは同じ危険を経験しようとしているのです。勿論、もし私たちがドアーを開いて外に出て、無知という保護から完全に離れるとき、危険はずっと大きなものとなります。

ですから、現在のパーソナリティーについてのワークを行い、現在のパーソナリティーがあらゆる誘惑、あらゆる危険に直面する準備をする必要があります。そして、危害を受けることなく地面の表面に到達でき、地面の上の四面ピラミッドのなかに立つ強さを獲得する必要があります。

Page 3

どの四面ピラミッドでしょうか？私たちが創造したピラミッドではなく、本物の大きなピラミッドであり、その大きな四面ピラミッドのなかで本当のワークがスタートするのです。

私たちが大きな四面ピラミッドのなかに立つとき、それは現在のパーソナリティーが「意識的意識のセルフ・エピグノシス」という意識のレベルを表現していることを意味します。つまり、現在のパーソナリティーは潜在意識的にではなく、意識的に生きているようになります。

ですから、あなた方は五芒星のなかにいることに慣れ親しむ必要があり、勿論五芒星は上向きになっており、このシンボルは創造界のなかの人間を示しています。

過去において私たちは、現在のパーソナリティーはまた乗り物として、保護シールドとして他のシンボルも使用するであろう、と述べました。そのシンボルとはいわゆる六芒星です。現在のパーソナリティーは最初はこの六芒星を創造物として、二元性の諸世界におけるあらゆる困難と立ち向かうために使用しますが、後になって現在のパーソナリティーが自己実現のレベルに到達すると、この六芒星は現在のパーソナリティーを真に表現するものとなります。

五芒星に戻りましょう。この星を乗り物として、保護シールドとしてどのように築くのでしょうか？

両足を約60センチ離して立ち、両腕は左右に地面と平行に伸ばします。そして頭上にエーテルの手を投射し、その位置から右足に向う直線を引きます。そして、右足を通って少し地面の中に入るとき、それはもう一つのポイントとなります。その右足のポイントから左手に向けてもう一本の線を描き、同じように少し先まで延ばします。そしてそのポイントから右手に向けて直線を描き、次に右手から左足に向けて直線を描き、そのポイントから頭上、つまり最初のポイントに戻ります。

今五芒星ができましたが、次のことを心に留めておいてください…これらの線は実際には線ではなく、ある濃度をもった光の輝き、輝く白光なのです。これを何回も何回もイメージして、いつでもそれにフォーカスできるようにします。それでは両足を閉じ、両手も下ろします。私たちが歩くとき、自然にこの五芒星が私たちについてくるようになるでしょう。

いずれにしても、あなた方はエーテルの特質をマスターするためのエクササイズを始める必要があります。それによって、他のすべてのものも自分自身で創造できるようになるからです。私たちは今を扱っていることを認識しなければなりません；私たちはいわば非常に聖なるステージに到達したのです。

私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

質問

質問：私たち一人ひとりはミカエルのオーダーからではなく、そのミカエルに付き添われていると言いました。しかし私には、私たち一人ひとりに付き添っている「その」ミカエルの違いが理解できません。私たち一人ひとりにとって、それは同じミカエル、あるいは別々のミカエルまたはガブリエルなのでしょうか？

Ｋ：私たち一人ひとりにとって別々のミカエルが付いていますが、それらは同じです。しかし、オーダーからのミカエルではありません。なぜなら、彼らは異なったセルフ・エピグノシスを有しており、果たすべき役目も異なっているからです。その役目とは、現在のパーソナリティーがそれ自身をそのオーダーに同調するよう助けることです。彼らはオーダー（＊グループ、組織）が行っている仕事をしているのではありません。アークエンジェルである守護天使は人間が啓発に向かうように、そこに引き寄せる働きをしています。さらに、（勿論、法則によって許される範囲においてですが）現在のパーソナリティーを守る働きをしています…好ましくない経験を回避できるようにです。

質問：創造界で働いているオーダーとしてのアークエンジェルと各パーソナリティーに付き添っているアークエンジェルを区別することにどんな意義があるのですか？それら二つの働きをいかにして区別することができるのですか？

Ｋ：なぜなら、例えば現在のパーソナリティーに付き添っているアークエンジェルに同調するとき、そのアークエンジェルが、特定のオーダーに属する無数のアークエンジェルたちの働きとは異なった働きをしていることに気がつく人はほとんどいません。このアークエンジェルは他のミカエルあるいはガブリエル、あるいはラファエルあるいはウリエルとは異なったレベルに立っています。あなたの「ミカエル」と他の人のミカエルは異なったレベルに立っています。もしあなたがミカエルのオーダーに属するミカエルに会えば、その違いを認識するようになり、あなたが特定のオーダーに属する一人のミカエルに会えば、それはそのオーダー全体に会うのと同じです。彼らは特定の仕事をしています。しかし、特定のパーソナリティーに付き添っているそのミカエルは、他のミカエルたちがしているような働きをしているのではありません。それが唯一の違いです。

Page 4

質問：はい、でも彼らは何をするのですか？

Ｋ：あなたはミカエルが何をするのか知らないのですか？

質問：特定のパーソナリティーのミカエル、彼の仕事はどのような意味で異なるのですか？

Ｋ：今述べたように、現在のパーソナリティーがオーダーに同調するのを助けることです。助けるのです。彼らはオーダーに属するミカエルの仕事をするのではありません。これらのアークエンジェルは、（人間が）その特定のオーダーに同調するのを助けるために働いています。彼らは完全に現在のパーソナリティーに付き添っています。他の無数のアークエンジェルたちは、現在のパーソナリティーに関しては、最小のなかで、そして最大のなかで働いています。しかし、この「守護」のアークエンジェル（＊ミカエルを初めとする個人に付き添っているアークエンジェルたち）は付き添っている現在のパーソナリティーのために100％働いています。最小の中で、マインドのひとつの原子の中で働いているミカエルたちのなかに自分のミカエルを見出すことはありません。そうではなく一つの完全なる存在として働いています。違いがわかりますか？

現在のパーソナリティーにとってどのアークエンジェルがより近いでしょうか？そうです、ラファエルです。ラファエルは人間の現在のパーソナリティーと同じ特質を有しており、ラファエルは人間の肩に止まっています。あなた方は人間の頭の少し上にラファエルを見ることでしょう。

質問：例えば、調和のイデアには意識があるのですか？

Ｋ：わかりません、人間には知りえないものです。絶対存在がそれ自身のなかで表現しているのは調和です。

それがどのように行われているか、私たちがいかにして知りえるでしょうか？それについて知ることは、自分が絶対存在の全体を知っていると言うのと同じことです。創造界においてそうなっていると知っていますが、しかしそれにアプローチすることはできません。それらのイデアが存在することは知っていますが、それらがいかにして機能しているかはわかりません。

質問：しかし、現象の諸世界では調和はバランスに変わります。そしてバランスはある種の意識を通じてそれ自体を正します。例えば、もしアンバランスがあれば遅かれ早かれいずれバランスが取り戻されます。そして再びアンバランスになると、そのうち何かが働いてバランスを取り戻そうとします…。

Ｋ：しかし、バランスとは理解可能なものです。それは人間の意識が無知に囲まれた結果として創造されたものです。絶対存在はそれとは何の関係もありません。調和のイデアと言うとき、それは人間に関することではなく絶対存在に関することです。バランスというとき、それは無知における人間に関することであり、人間がアプローチ可能なこと、人間に理解可能なことです。

質問：はい、でも調和がバランスに変わると言います。

Ｋ：人間が「生それ自身」として現れているときには調和のリアリティーを生きています。しかし、人間が生の現象として現れているときには、人間はもはやそのリアリティーを生きていません。代わりに、彼あるいは彼女自身が創造するイリュージョンを生きています。

質問：私が言いたいポイントはこういうことです。現象の諸世界において、バランスがくずれていると気づくことがあります。アンバランスに気づくことができます。それはバランスのイデアのなかに存在するある種の意識によるのでしょうか？

Ｋ：あなたが言いたいポイントはわかります。しかし、私たちがバランスのイデアについて話したことはありません。私たちが話したのは、啓発への誘引です。私たちは対立する二極、バランスとアンバランスが存在する諸世界に生きています。それは人間が経験することができるためです。というのも、もし常にバランスがあるなら、人間は様々な経験を経ることがありません…これについて考えてみなさい。

Page 5

質問：私が知りたいことは、このバランスのなかに意識があるか否かということです。

Ｋ：考えてください。意識がバランスをコントロールしている、ということをあなたが聞きたければ、あなたはそれについて知るべきです。原因・結果の法則がありますから。

質問：…しかしそれはイデアではありません…

Ｋ：それはイデアではありません。この法則を支配しているアークエンジェルのオーダーがあります。それは法則であり、別々のイデアではありません。それは創造それ自体の結果としてのイデアの法則です。それは最初の瞬間から現れています。私たちが例えば「永遠のアトム」のイデアを有しているのとまったく同じことです。

質問：それでは、イデアという法則として下降して、もっと人間が触知しえる仕方で現れるとき、アークエンジェルの創造があるのでしょうか？

Ｋ：それは創造ではありません。そのオーダーは最初から存在します。勉強する上で私たちは始まりと言いますが、最初の瞬間からアークエンジェルのオーダーはあります。そのオーダーは創造という問題ではありません。「オーダーは在る」のです。それはオーダーです。

質問：私たちが住んでいる地下の墓、それは人間のエゴイズムと関係があるのですか？

Ｋ：エゴイズムは無知の結果です。そして勿論、エゴイズムの様々な局面があります。そうです、無知のなかで私たちはそれらの様々な局面を有しており、それら様々な局面のエゴを打ち破り、殺す必要があります。

質問：私たちは墓の中でそれをするのですか？

Ｋ：いいえ、墓のなかではありません。私たちが大きな四面ピラミッドのなかに立つとき、それを行うのです。

つまり、私たちが意識的に生き始めるとき、私たちが実際に自分の弱点を認識するとき、自分たちが本当は何であるかを明確に見るときです。その時初めて、私たちは現在のパーソナリティーをマスターすることに向けて真のワークがスタートするのです。現在のパーソナリティーがそこに到達するまでまだ長い道のりがあります。それゆえ、私たちは一生懸命試みなければならないのです。

質問：間違ってドアーを開くこともありえるのでしょうか？

Ｋ：バランスの欠けたパーソナリティーだけが、ドアーを開いて、それら全ての悪魔的なエレメンタルたち…それもまた人間が創造したものですが…に近づくという不快な体験をします。真理の探究者は、もし言われたとおりにきちんと行えば、何も恐れる必要はありません。いかなる恐れも抱くことなく、常に堅固な地面に立って進むことができます。私がそれを保証します。残念なことに、多くの人々は自分が非常に強く、何も自分を害することはできない、と考えています。しかし、彼らは火を弄んでいるのであり、何か不運なことが生じるとき初めて自分がいかに弱いかを知るのです。しかし、そのときはすでに手遅れです。再び自分を取り戻し、そのアンバランスな状態をバランスの取れた状態に戻すには非常に長い時間がかかるでしょう。ですから、私たちは非常に注意する必要があります。そして、注意していれば、何も恐れる必要はありません。もしあなたがこの傘の下に留まることを欲するなら、あなたにはサポートがあり、守られています。それはパーソナリティー次第です。そして、傘というとき、それはガイダンスに従うことを意味します。もし誰かがガイダンスに従うことを望まず、ドアーを開いたりするためにあちこちに行くなら、その結果に苦しむのはその特定のパーソナリティーです。こう言いましょう。もしその現在のパーソナリティーが真剣ではなく、危険を適当に推測するなら、火を弄ぶよりは無知のなかに留まる方がましである、と。なぜなら、無知のなかにあることは守られていることだからです。勿論、常にある程度までですが。

しかし、もし人が啓発に向かって進むことを願い、無知を背後に残して前進することを欲するなら、その人は非常に真剣で、誠実であり、適切なガイダンスを受け入れる必要があります。誰も自分一人で進むことはできません。さもないと、内側からの声だと告げる声に騙される可能性があります。毎日、世界中でそのような結果が生じています。

質問：正しい道を歩み始めるポイントに到達する、と言いましたが、そのポイントに到達するためには、いくらかあちこち覗いてみるという経験を経ることを意味します。さもないと、正しい道に向かって見るという感覚が得られないでしょう。一般的に、人間は現象に魅惑されてしまいます…。

Ｋ：勿論です。

質問：…それで思うのですが、もしヒーリングの永続的効果がある場合、人々はヒーリングのセッション中にいっきに催眠状態に入るのかどうかということですが？

Ｋ：どんな人間にも自分自身を癒すパワーがあります、もしそれを強く信じればですが。もしその人が人間としての現れの原因であるなら、なぜできないことがあるでしょうか？おそらく、生じたことはなんでもそこに参加した人々に役立つためかもしれません。しかし、それを自分が行ったと主張する人々は、それが自分の手柄となることはなく、むしろ借金となります。

質問：それは、そのパーソナリティーがエネルギーを汲みだす必要があり、そのエネルギーは参加した人々によって吸収された、ということでしょうか？

Ｋ：ときには、そういうこともあります。しかし、なぜ極端な例を挙げるのでしょう。しかし、あなたはそのようなセッションの会場にいる人々によって築かれるエレメンタルがいかに強力なものであるか想像できますか？そのことは、例えば処女マリアなどの特定の礼拝地にも同じことが言えます。人々が非常に強い献身の情を捧げる場所がいくつかあります。ルルドの泉の処女マリア、ティノス（＊エーゲ海にあるギリシャの島）の処女マリア、キコス（キプロスにある僧院）の処女マリアなどです。処女マリアは一人であるにもかかわらず、それらの場所などでは多くの現象が生じています。

＊（訳注…レッスンの題目、メタトロニオスという言葉にはもともと、玉座の背後で仕える者、玉座を取り巻く者、玉座の近くにいる者などの意味があります）

エクササイズ：K5/6NO.1

静かに座り、あなたの心を騒がせているもの全てを解き放ちます。白い光に包まれている自分をイメージし、自分の体の境界を感じます。あなたは今、あたり一面濃い霧に覆われている場所におり、あなたはその濃い霧に包まれています…実際、自分の周囲を見渡しても何も見えません…あなたの視界はこの濃い霧に遮られています。自分の前方にフォーカスしてみると、何か輝いているものがありますが、濃い霧のためにそれが何なのかわかりません…その輝いている光が何色なのかもわかりません。右側を向いても、左側を向いても、前方と同じように何か輝いていますがはっきりわかりません。さらに、右に180度回転しても、やはりまったく同じです…濃い霧の背後に何があるのかわかりません。しかし、自分が四つの壁に囲まれていて上には屋根、屋根という限界があるのでは、と言う考えが浮かんできます。しかし、今のところ、この濃い霧のために何も見えません…霧が体に触れる感触ですら気持ちよく感じられません…

それでは五芒星を作ってみます…そして、自分自身が五芒星のなかにいるのをイメージします…あなたは今、この五芒星のなかにいます。そして今、自分の前方にフォーカスしてみると…霧は相変わらずとても濃いにもかかわらず、前よりもいくらか見通すことができますが、それでも霧の背後に何があるのかわかりません。今、霧があなたの体に触れている感じがそれほどしません…あなたは五芒星によって守られています。あなたの現在のパーソナリティーの健康を願い、この五芒星の保護シールドがいつもあなたと共にあり、あなたを守ってくれることを願います。そしてこのシールドに敬意を抱くことを約束します。

私たちは常に主、絶対、神の聖性によって抱かれています。

EREVNA/SPA05/J6.K5/SE/